

コカコーラ・キッド (1985)

THE COCA-COLA KID

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 オーストラリア

色彩 Color

時間 97分

初公開日 1987/10/31

公開情報 シネマテン

【解説】

鬼才マカヴェイエフがオーストラリアで撮った、いわゆる文化摩擦コメディで、かなり官能的なラブ・シーンを除けば、まるでビル・フォーサイス（「ローカル・ヒーロー／夢に生きた男」）作品のような、ほんわかムードと小気味いい風刺の重層が楽しめる。コカコーラ豪州支社長に着任のテレックスのつく前に、アトランタから到着した凄腕セールスマン、ベッカー。元海兵隊員の彼は潔癖症で、秘書のテリーののだらし無さに手を焼き、別れた夫が慰謝料をよこせと怒鳴り込んでくるに及んでは呆れてしまう。さて、ハイテクを駆使した販売案会議で、コークが全く売れていない地帯を発見したベッカーは、どうしたことかと訝って現地へ飛ぶ。そこ、アンダースン溪谷は地主マクダウエルが全てを自給自足し、清涼飲料も独自のものを作って売っていた。ベッカーは危険に晒されながらもその工場を発見するが捕えられてしまう。と、彼の勇気を認めたマクダウエルは自ら工場を案内し、コカコーラとの業務提携も申し出るが、それが全くイーヴンな条件だったので眼中にも入れられず、結局、自分の会社を乗っ取られる形になってしまうのだが……。マカヴェイエフが原作者F・ムーアハウスと共同で、彼の二つの短篇からこのストーリーを組み立てたのだが、主演ベッカーを演じたロバーツが撮影中相当ゴネて、思ったように仕上がらなかったと、脚本に名前を出すのを止めたという。スタッフのほとんどがオーストラリア勢で占められ、コマソンとして劇中製作される主題歌も、彼の国を代表するロック・バンド“スプリット・エンズ”のヴォーカリストだったT・フィンが当たっている。一応はコカコーラ社の承認を得て作られたようだが、開巻、延々と“当社とは何ら関わりのない云々”と言い訳が流されるのが滑稽であった。

【クレジット】

| | | |
|-------|---------------|-----------------|
| 監督 | ドゥシャン・マカヴェイエフ | Dusan Makavejev |
| 製作 | デヴィッド・ロウ | David Roe |
| 製作総指揮 | レイ・リスゴー | |
| 原作 | フランク・ムーアハウス | Frank Moorhouse |
| 脚本 | フランク・ムーアハウス | Frank Moorhouse |
| 撮影 | ディーン・セムラー | Dean Semler |
| 音楽 | ティム・フィン | |
| 出演 | エリック・ロバーツ | Eric Roberts |
| | グレタ・スカッキ | Greta Scacchi |
| | ビル・ケアー | |